別添３

# 令和元年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要
## 農産・蚕糸部門

## きめ細やかな栽培管理と機械化による省力・高収量の実現

**○氏名又は名称　狩野　和紀・狩野　郁江**

**○所　　在　　地　群馬県利根郡昭和村**

**○出　　品　　財　技術・ほ場（こんにゃく）**

**○受　賞　理　由**

**・地域の概要**

利根沼田地域は群馬県の北部に位置し、夏期は冷涼で昼夜の温度差が大きい中山間地域特有の気候風土を有している。年間の平均気温 11.6℃、夏期は 30℃程度まで上がるが、冬期の最低気温はマイナス５℃まで下がる。耕土は平均 30～50 ㎝で、地域の大部分は火山灰土である。

**・受賞者の取組の経過と経営の現況**

和紀氏が平成 20 年に就農した当時、狩野家は兼業農家でこんにゃくの栽培面積は８ha であったが、専業農家となることを決意したことから規模拡大が必須と考え、貯蔵庫の増設や各種農作業機械を導入して省力化に努め、30 年には、こんにゃくと新たに導入したトウモロコシを併せて 20ha まで拡大した。夫婦二人と両親の家族経営であり、繁忙期には季節雇用で労働力をまかなっている。

**・受賞者の特色**

**（１）経営の安定化**

規模拡大には省力化が必須と考え、積極的に農作業機械の導入を行い、省力化を図っている。ほ場はリスク分散のため各所に保有し、一見条件の悪そうなほ場が気象災害を受けにくく優良種芋が確保できるなど、安定した作柄を維持することに役立っている。

**（２）技術に関するこだわり**

安定生産を第一とし、丁寧で地道な作業の積み重ねが重要との考え方から、種芋（生子）の状態や過去の栽培記録、成績等を考慮しながら栽培を行い、状況に合わせた丁寧な施肥管理や土作りのためトウモロコシ残渣のすき込みを行っている。また、病害のない健全な生子を用いることを重視している。これらの取り組みから安定して高い単収を得ており、28 年度群馬県こんにゃく立毛共進会で 10a 当たりの収量が一位となった。

**（３）女性に働きやすい環境作りによる労働力の確保**

郁江氏は経営管理全般を担当している。繁忙期の労働力確保が課題となっている中、母親同士という共通人脈の雇用をはじめとして、個々の都合に合わせた就労時間や勤務日数の設定、賃金の週払いによるモチベーションの向上に加え、畑仕事の後で直接子供の送迎に行けるようシャワー室や洗濯機を整備するなど、郁江氏のアイディアで女性の視点から雇用確保の取り組みを進めている。

**・普及性と今後の発展方向**

求めに応じて事例発表を行うなど、自身の栽培管理を地域のみならず県内生産者に公開し、栽培技術の向上に貢献している。近隣農家も狩野氏の省力化、効率化を参考に機械導入を進めており、若い世代のこんにゃくの栽培に対する意欲向上に大きく貢献している。